

3. トヨタの森における環境緑化・環境教育活動について

(著者名：トヨタ自動車株式会社 池上 博身)

「トヨタの森」の概況と背景

「トヨタの森」のコンセプトを簡潔にまとめると、以下のようになる。

①狙い

環境社会貢献の一環として、「森を軸とした循環型社会づくり」の実現を目指すことにより、環境に関わる企業イメージの一層の向上を図る。

②基本的な考え方

“人と自然との共生”を基本理念として、身近な自然環境(=里山)の中で「緑による環境の改善」(=環境緑化)を実践し、その成果の普及を図る。

「トヨタの森」は、豊田市緑の基本計画において「緑の外環」として位置づけられている豊田市市街地を取り囲む環状緑地帯に位置し、「森を軸とした持続可能な循環型社会づくり」を、具体的な取り組み事例に基づき、発信、提案するものである。1997年、全敷地75haのうち15haについて里山環境の再生を目指した環境整備を行い、整備・保全・活用の3ゾーンに区分して一般開放にふみきった。ここでは、拠点施設である里山学習館「エコの森ハウス」の他、湿生生物観察園（復元型ビオトープ）、自然生態観察園（造成型ビオトープ）、周伊勢湾種保全試験区（貴重生物種観察園）など、15程度の試験エリアを設置した。その後、自然とのふれあい施設整備に関する社会的ニーズの高まりに応える形で2008年にはその整備範囲を40haに拡大した。



「トヨタの森」の取組紹介

「トヨタの森」では、健全な里山の保全・活性化に向けた活動を継続しながら、里山の保全活動の環境および生物多様性への影響を把握するために継続的なエコモニタリングを実施し、データの蓄積とともに、里山保全の方法のあり方検討に役立っている。さらに、これらの結果を広く一般にも公開するとともに、インタープリターによる森の紹介や、特に学童を対象とした自然環境学習プログラムの企画実施などにも横展している。活動の拠点施設「里山学習館 エコの森ハウス」には「トヨタの森」インタープリターの役割・使命が右のように掲げられており、「自然への感謝と畏敬の念、人と自然・人と社会についての学び」といった本質的な自然環境教育を目指している。

「トヨタの森」インタープリターの役割・使命 (平成18年12月制定)

来訪者等に対して以下のようなインタープリテーションを為すよう努める

- ◆持続可能な循環型社会づくりについて、特に、地球温暖化防止につながる個人のライフスタイル見直しの必要性や大切さを伝える
- ◆森での活動体験を通じて、食物連鎖や生命の繋がりを、生命を大切にする気持ち、さらには自然への感謝と畏敬の念を育む
- ◆自然の「不思議さ」「面白さ」「神秘さ」を五感を用いて体験いただき、人と自然、人と社会についてのさらなる学びのきっかけとしていただく

「トヨタの森」を拠点とした生物多様性への取組みの広がり

具体的には、1998年から10年間にわたり7つの試験区において樹林の成長量をモニタリングし、幹枝現存量増加量からCO₂の吸収固定量を推計したところ、年間haあたり最小3.7tonから最大11.4ton、平均6.4tonという結果が得られた。これはCO₂に換算すると23.3tonとなり、およそ64人分の年間呼吸量に相当する。

また、2008年度から開始した市民参加のエコモニタリングで行った「フクロウの棲む森づくり」では、毎年2～3個体のフクロウ幼鳥がトヨタの森から巣立っていることが確認されている。さらに、2008年度から環境省生物多様性センターが進める「モニタリングサイト1000里地調査」一般サイトに参画し、植物、鳥類、哺乳動物、水環境、カエル、ネズミの6項目について、継続的に調査を行っている。



センサー付カメラで撮影されたアルビノのタヌキ

「豊森」の取組み紹介

2009年には、SEGESの評価項目にもある「外部とのコミュニケーション」という観点に立ち、地域での循環型社会づくりに向けた取組みを推進する専門人材の育成を目指す取組み「豊森（とよもり）プロジェクト」を、新たな社会貢献プロジェクトとして、行政（豊田市）、NPO（地球の未来・志援センター）との協働により開始した。「豊森」は、森林の活用を図る「人づくり」「地域づくり」「仕組みづくり」のプロジェクトであり、行政・NPO・企業の3者がそれぞれのフィールド、ノウハウ、人材を持ち寄り、森の生態系サービスを積極的に活用した持続可能な循環型社会の仕組みを生み出し、都市と農山村の暮らしの中で人と人の心を結び直すことを基本コンセプトとするものである。

「豊森」では、一般公募で書類選考された30名（応募120名）が、2年間にわたって毎月1回（全20回）、座学や山里でのフィールドワーク、合宿等にグループで取り組むことで、地域を知り、コミュニティ・ビジネスの先進事例を学ぶ。最終的には、受講者による都市と農山村をつなぐ事業の立案や、新たなライフスタイルの提案などのプロジェクトの実現を目指している。このようにして、「森づくりから始まる人づくりまちづくり」という、トヨタの森のコンセプトが具現化しつつある。



豊森なりわい塾開校式



豊森なりわい塾、地域での聞き書き

「ふくろうプロジェクト」でのソニーの森との連携への挑戦

さらに、地域生態系の保全を考えた場合、ひとつの企業での取り組みでは限界があるとの認識から、新たに、企業の壁を越えた「企業間連携による地域生態系への取り組み」として、ソニーイーエムシーエス(株)東海テック幸田サイトとの連携による「ふくろうプロジェクト」を08年度より推進している。これは、フクロウを生物多様性を示すひとつの指標種としてとらえ、トヨタの森とソニーの森の連携によって地域のフクロウの生息環境を保全しようとする試みで、連続した生息環境保全活動の連携とともに、社会・環境貢献プログラムというソフト面の連携への挑戦でもある。



フクロウの棲む森づくり

生物多様性、社会・環境貢献と「トヨタの森」の今後について

今後の取り組みとして、「森づくり」では、老齢・大径木化した雑木林の効果的な育成やさらなる成果の普及、地域との連携、「人づくり」では、「豊森」第2期の企画推進、「地域づくり」では、「持続可能な循環型まちづくりへの取り組み」などを課題として捉えている。環境緑化に係る今日的なニーズを適切に把握し、「トヨタの森」での展開を図るとともに、自然共生をテーマにしたトヨタ関連施設である「トヨタ白川郷自然学校」や現在計画中である「下山プロジェクト」などとの情報交流、ノウハウの共有化を図る仕組みづくりもあわせて進めていきたいと考えている。

質疑応答

質問.

トヨタの森をゼロからつくり上げる経験は、担当する個人にどのような変化をもたらしたか、お話しをお聞きしたい。

回答.

トヨタ自動車で総務部門を長年担当してきたが、社会貢献活動として「森づくり」に携わることになった当初は困惑した。緑や森の大切さは概念では理解していたものの、それまで森の中に入って作業をしたりする経験は全くなかった。トヨタの森を育てていくなかで、緑や生き物の大切さや素晴らしさを肌で感じるとともに、本当に素晴らしい仲間にも巡り合うことができた。今では森の中で、子どもたちや地域の方々とともに自然と触れ合う活動が大好きになり、社会貢献活動としての森づくりの本質を理解し体得することにもつながったと思う。自然観の変化により人生観も変わるきっかけとなったと思う。